

## Rainbow Project 日本語版 会話：駅前編解説

日本語学習者にとっては、大阪方言はそれまでに習っていない日本語なので、別言語と思う人がいるようです。それはどの言語を学んでも、いわゆる共通語以外で話しているのを聞けば同じことを感じます。首都圏では、営業や販売の仕事をしている人が共通語を話している方が多いでしょう。それは、業種によって共通語に矯正されているというのも一因です。一方でそういうことにこだわらない会社に勤めると、共通語ではない方言を話している人がいます。駅前編では、東京方言に準拠しない共通語や大阪方言を話す添乗員がお客様に話しかける場面設定となっています。ある程度日本語共通語が聞きとれるようになったレベルで、日常的に東京方言以外の方言でも自然な会話が成り立つこと、その人がどういう意図で話しているかを理解していただければと考えております。

なお、撮影時間の制約により収録できる会話が限られていることをあらかじめご了承ください。

### 1. おはようございます

初対面で全く知らない人に突然「おはようございます」と挨拶するのは、日常的には不自然な場合があります。処世として知らない人にも分け隔てなく挨拶をする人は一定数いますが、それに違和感を覚える人も一定数います。初対面の人に自然に挨拶をするという設定として、『旅のお供に今すぐ使えるトルコ語入門』では、ツアーガイドに観光客が会う場面で設定しました。この課でもそれをふまえて、集合場所にきた観光客が添乗員に会う場面に設定しました。

この課での会話では、添乗員の待遇表現に文体差はありますが、基本的には客商売ですので、表現形式は共通語の形式をとっています。よって、共通語と大阪方言の違いは主にイントネーションの違いとなっています。

観光客 「おはようございます」

添乗員 「おはようございます。確認のため、お名前をお聞きしてもよろしいでしょうか」

くだけた大阪方言では「おはようさん」「おはよう」「まいど」がありますが、この場面で添乗員が観光客にそう言うことは通常ありえません。また、この場面では初対面ですが、「はじめまして」は使いません。ツアーに参加する際の挨拶としては、「はじめまして」は不自然です。よって、時間帯によって「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」と使い分けるのが自然でしょう。

添乗員 「ありがとうございます」

観光客の名前を確認した後に言うのは感謝の表現が自然です。これについても、この場面では表現形式は共通語も大阪方言も同様であることが多いでしょう。くだけた大阪方言では「ありがとう」「ありがとさん」が挙げられますが、この場面で添乗員が使うことは通常ありえません。

添乗員 「本日ご案内いたします、ツアーリストの〇〇です。よろしくお願いします」

ここで添乗員ははじめて名前を名乗るわけですが、やはりこの場面でも「はじめまして」は不自然です。

添乗員 「日本語お上手ですね」

大阪方言「日本語上手いですね」

両表現は、方言の違いというより添乗員の年齢による違いです。ただ、「お上手ですね」>「上手いですね」という待遇の度合いの違いがありますので、そこを間違えると人間関係で衝突が起こります。また、この表現は日本人にとっての一種の社交辞令なので、ぶっきらぼうに返答しなければ、対人関係の軋轢は生じません。

## 2. お仕事は？

これから一緒に時間を過ごすお客様に対してということですので、差し支えない程度の会話はあります。ここでの会話も一種の社交辞令です。自ら自己紹介をするのではなく、相手に促される形で自己紹介をしている場面です。

添乗員 「日本は初めてですか」

観光客 「いえ、日本に来て5年になります」

添乗員 「そうですか。学生さんですか？」

観光客 「いえいえ、そんなに若くありません」

添乗員 「失礼しました。お仕事は？」

観光客 「商社で、事務をしています」

添乗員 「そうですか」

表現形式は共通語ですので、大阪方言のイントネーションを聞いて内容が頭に入るかどうかを確認してみてください。なお、大阪方言では「そうですか／そうなんですか」という表現は相槌としてはなじまないもので、本課では「あー、5年も」「それはそれは」としてい

ます。

### 3. はじめまして

これから行程を共にする観光客同士の会話としては「おはようございます」より「はじめまして」の後に簡単な自己紹介をする方が自然です。こういった場面以外では、「はじめまして」は、誰かに紹介された初対面の人に改めて挨拶する時に使います。

この課では、東京出身ではない日本人観光客 2 名と外国人観光客が、それぞれの共通語で自己紹介の後、雑談をしています。日本人観光客の能天気な会話におつきあいください。